



# コスモス

NO.50

校訓：支え合い 学び合い たくましく  
学校教育目標

「ふるさとを愛し 志をもって  
チャレンジする人を育てる」

## 卒業生のすばらしさ、そして、在校生のがんばり

卒業式は1時間余りですが、そこに至るまでにはかなりの時間と「力」を注ぎます。6年生はもちろんのこと、在校生も、教職員も、つまり、学校全体が。なぜなら、小学校において卒業式は「最高の行事」だからです。卒業式の主役を務めるのは、簡単なことではありません。入場の歩き方、立った姿勢、座った姿勢、回れ右、証書の受け取り方、旅立ちの言葉作成と練習、卒業生の歌の曲決めと練習、卒業記念品目録贈呈の作法……。やることは膨大です。それを乗り越えて、6年生28名は卒業式を迎えたのです。

もちろん教科の勉強もしないといけませんから、時間は限られています。その中で、できる限りレベルアップしていきたいと担任も私も願っていました。「ある程度できればいいのでは……」という考えもあるかもしれませんが、人生の大きな節目の式の練習を通して、子どもたちに、心構えや作法を身に付けてほしいと考えています。

6年生の練習に私も何度も加わりましたが、子どもたちはとても素直に一つ一つのことを吸収して、一日一日高まっていました。

そして迎えた、3月17日。卒業証書授与式。卒業生となった子どもたちは、体育館中央の赤い絨毯の上を堂々と入場しました。

卒業生の呼名と卒業証書並びに記念品授与。小学校生活最後の返事を、全員がんばりました。一生懸命さが伝わってきました。証書授与は校長の大切な役目です。読むときに言い間違えたり、言葉が詰まったりしないように注意しながら、無事に渡し終えました。どの子の表情も態度も立派でした。



校長式辞では、次のようなことを伝えました。

.....

六年前のみなさんの入学の時、私は財田小学校で教頭を務めていました。元気で笑顔いっぱいのかわいらしいあなたたちがそこにいましたが、コロナ禍で、通常とは違うことがたくさんありました。四月七日に入学したみなさんですが、六日後の十三日には、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業になりました。五月後半には学年を分けての授業や、オンライン授業を行い、やっと通常の授業を再開できたのは六月からでした。しかし、みなさんがご家族や地域、学校の宝であり、みなさんの入学が、何物にも代えられない喜びであったことは、いつもと何も変わりませんでした。

学習発表会も、校内のいくつかの場所に分散しての開催でした。一年生のみなさんの発表場所は体育館。忍者の衣装に身を包んで、このステージから、フロアのセフティーマットへ大ジャンプしました。ものすごくかっこよかったです。体育の授業を担当していた私も、お揃いの忍者の衣装を着せてもらいました。

学年が進んでも素直さとやる気を持ち続け、とても明るくて、やる気に満ちあふれていました。授業では、先生の問いかけに対して反応がとてもよく、楽しみながらも真剣に授業に取り組み、活気がありました。

最上級生になった今年は、開校十周年の節目の年。財田の大先輩大久保謙之丞さんのこと、コスモスの花に願いを込めた学校の校章のこと、今日もみんなで歌う校歌の、阿讃の峰の向こうの広い世界・財田川の流れるふるさと・未来への希望などの想い。財田小学校の十周年記念は、たくさん大切なことを考える機会になりました。

財田小学校の誕生には、多くの方が思いを込め、力を尽くしてくださっています。人は、幼い頃は自分のことで精いっぱいですが、大きくなるにつれて、家族のために、地域のために、誰かのためにがんばることができるようになります。卒業しても、その力を伸ばし、強く、大きく、豊かに広げていってください。

今から十年後の開校二十周年の年には、みなさんは二十二歳。きっと、自分らしくがんばっているでしょう。「自分らしく」でいいのです。

ただ、「新しい自分へのチャレンジ」も忘れないでください。チャレンジの先にチェンジつまり変化や成長があります。うまくいかなかったら、何度でもチャレンジすればいいのです。きっと、「おっ！自分も成長しているなあ。」と実感できます。それが積み重なって、自分らしいすてきな花を咲かせることができます。学校の花壇で、夏、力強く咲き誇ったヒマワリ。秋にしなやかに逞しく咲いたコスモス。冬の寒さに耐え、春を待って少しずつ大きくなっているパンジーや矢車草や菜の花やチューリップ。それとも、野に咲くたくましい花。みなさんなら、一人一人個性いっぱい、自分の花を咲かせることができます。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

六年間お子様といっしょに、喜びや不安の毎日を送ってこられたことと思いますが、立派に成長されたお子様の姿に喜びもひとしおのことと思います。

また、本校の教育活動にご協力をいただき、誠にありがとうございました。皆様と共に子どもたちと共に歩んできたことができましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

ご来賓の皆様には、地域全体で子どもたちを、学校を支えていただき、ありがとうございます。地域社会の中で子どもたちは育っています。引き続きご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。暖かな春、暑い夏、爽やかな秋、寒い冬の日を六年間歩み続けて、今、卒業の春を迎えています。よくがんばってきました。仲間と共に成長してきました。これからも財田小学校はここにあります。財田小学校の心もここに、そして、一人一人の中にあります。成長し、旅立つみなさんをずっとずっとずっと応援しています。ご卒業、おめでとうございます。

.....

三豊市教育委員会やご来賓の方々からも、温かいご祝辞をいただきました。また、これまでの担任の先生方や、関わっていただいた多くの皆様方からお祝いのメッセージ（祝電）をいただきました。本当にたくさんの皆さんが、卒業を祝ってくださっているのだと感じました。

〈在校生お祝いの言葉〉では、在校生がよくがんばりました。言葉も歌♪明日へつなぐもの♪も、一生懸命さがうれしかったです。きっと、6年生の後を継いでくれると思います。

〈卒業生旅立ちの言葉〉も♪絆♪という曲の歌唱も心に響きました。

〈卒業記念品目録贈呈〉は、テントを贈ってくださいました。運動会などで、大きな屋根となって、暑い日差しから後輩たちを守ってくれることとなります。ありがとうございました。

そして、卒業生退場の時が来ました。2人ずつ並んで、堂々と退場していきました。会場のみんなで、大きな拍手を贈りました。

.....

翌日、18日の朝。いつもと変わらない朝。しかし、6年生は登校してきません。「今日は、子どもたちも元気が出ないかな・・・。」と思いながら、玄関から正門に向かって歩いていました。すると、はるか遠くの玄関から（70mぐらい離れていると思います）、「おはようございます！」という、超元気なあいさつの声が飛んで来ました。負けないぐらい大きな声で「おはようございます！」と返して、だんだん近づいていくと、3年生の男の子でした。すぐその後には、1年生の男の子も元気なあいさつをしてくれました。それだけではありません。何だか、昨日までよりも多くの子が、大きな声であいさつをしてくれたように感じました。「財田小学校の元気なあいさつは、6年生がいなくなっても、後輩たちが受け継いでくれている！」と、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

卒業式の余韻とさみしさを感じながらも、「後を継ぐ子どもたちは、もうすでにがんばり始めているんだなあ。」と、うれしくなった朝でした。

